

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科 : 20単位
 日本文化学科 : 20単位
 子ども教育学科 : 20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
1	図書館情報学概論	2	2	塩崎 亮	国立国会図書館	国立国会図書館および国立情報学研究所において図書館・情報サービス業務全般に従事した経験をもとに、図書館・情報サービスの現場で実際に必要となる知識・スキルを具体的に教示する。 図書館の概要を理解するとともに、記録された情報を探し、整理した上で人に伝える力を育む。司書資格取得を目指す受講者にとっては、司書資格取得科目の導入として、今後学ぶ諸科目に関する基礎知識をもえる。 文部科学省令で定められた科目内容に即し、図書館の社会的意義、機能、法制度、歴史・現状・今後の課題、公立図書館以外の各種図書館の概要、出版流通業界との関係等について取り上げ、社会における図書館の全体像を把握できる内容とする。	○	○	
2	英米児童文学	1	4	松本 祐子	児童文学作家	児童文学の実作家として、児童文学作品を出版してきた経験児童文学の書き手としての経験をもとに視点を含めた作品理解の方法を指導する。 長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。物語の背景としてのイギリス、アメリカの歴史と文化に目を向けることで知識と教養を身につけ、言葉によって創造された物語世界を自身の想像力を働かせながら読み解くことで人間性についての理解力を高め、作品のテーマや作者からのメッセージを正しく受け止められることを目標とする。 この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではない昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。	○		○
3	現代英文法	1	4	村岡 有香	私立高校教諭	高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学の知識を身に付けることをテーマに学ぶ。特に、英文法について学び、中学校・高等学校でいかに教えるかを念頭におきながら、各々の文法事項について検討する。併せて、文法事項の特性に応じて、話し言葉と書き言葉による言語形式の違いと英語の音声の仕組みや、英語の歴史の変遷についても関連付け、英文法の理解を深める。 英語の音声の仕組みと、英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の特性を概観したのちに、それらの特性と関連付けながら、中学校及び高等学校で扱う文法事項について、項目ごとに扱う。各文法項目に関しては、中学校や高等学校での指導を念頭に置きながら、文法学習の重要事項の理論と演習の方法論を検討する。音声の仕組みを教授することを意識した声に出して読む実践や、国際共通語であることを踏まえたコミュニケーション英文法についても扱う。	○		
4	英語科教育法Ⅰ	2	2	村岡 有香	私立高校教諭	高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領における外国語（英語）科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに、「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に続いて学び、授業実践についての考え方や指導方法を磨き、「外国語（英語）科の授業づくり」ができる指導力を身につけることを目標とする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識及び学習評価の基礎、情報機器及び教材の活用に関する知識と方法を、学習指導案を立案した上で模擬授業を個々に実践することで身に付ける。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領に照らしながら、外国語（英語）科の授業について事例研究を行う。第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術等への理解を深め、理論から実践に繋げるために、実際の授業の在り方についても考察する。あわせて、英語科教員として必要とされる英語力を身に着け、学習指導案を作成した上で、模擬授業を行う中で、授業内での指導に必要な教室英語を使いこなせる力を養う。	○		

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科 : 20単位
 日本文化学科 : 20単位
 子ども教育学科 : 20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
5	英語科教育法II	2	2	村岡 有香	私立高校教諭	高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領における外国語（英語）科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに、「英語科教育法Ⅰ」に続いて学び、授業実践についての基礎的な考え方や指導方法を理解し、英語でのインタラクション等「外国語（英語）科の授業づくり」ができる英語力と指導力を身につけることを目標とする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識及び学習評価の基礎、情報機器及び教材の活用に関する知識と方法を実践しながら身に付ける。 「英語科教育法Ⅰ」で身に付けた知識と方法をもとに、実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等に取組みながら、英語科の実践的な指導力を身に付ける。中高英語教育で求められるコミュニケーション能力の育成のために聞く・話す・読む・書くの四技能を有機的に関連付けながら指導することを目指す。模擬授業においては教科書を十分理解しながら、実際の授業での配慮事項等を段階的に身に付けることをねらう。あわせて、英語科教員として必要とされる英語力を磨き、学習指導案を作成した上で、英語でのインタラクションを取り入れた模擬授業を行う。	○		
6	英語科教育法IV	3	2	村岡 有香	私立高校教諭	高校教員時代に積んだ様々な経験をもとに、教育現場の実態について言及し、幅広い観点から理論的・実践的知識を教授する。 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領における外国語（英語）科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに、「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に続いて学び、授業実践についての考え方や指導方法を磨き、「外国語（英語）科の授業づくり」ができる指導力を身につけることを目標とする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識及び学習評価の基礎、情報機器及び教材の活用に関する知識と方法を、学習指導案を立案した上で模擬授業を個々に実践することで身に付ける。 「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」における学修成果を踏まえて、受講生一人一人が指導計画を立案し、指導目標をもとに学習指導案を作成したうえで一人ずつ模擬授業を実施し、互いの模擬授業を振り返っての話し合いを行う。教育実習で授業が実施できるようになるためのトレーニングを重ね、指導力向上を目指し、よりよい英語の授業のあり方を模索する。	○		
7	異文化理解	1	4	小川 隆夫	埼玉県小学校教諭	小学校教諭として多くの外国人ALTと働いた経験と自らの会社で外国人社員を雇用していた経験をもとに学生が将来多くの世界中の人々と関りながら活躍できるようになるため、異文化理解及び異文化コミュニケーションの観点から理論的・実践的知識を教授する。 異文化を理解し多様な文化的背景を持った人々と交流する体験を通して、異文化交流を行うことで文化の多様性に対する自らの視点が拓かれて行くことを実感し、異文化交流の意義を理解する。母語またはコミュニケーション手段として英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な事項を知り、世界の文化の多様性を踏まえた異文化コミュニケーションの現状と課題を認識する。 様々な異文化交流及び摩擦の事例に学び、文化が人々の生活や関わりに及ぼす影響を考察しながら、英語を含む外国語やその背景にある文化の多様性を知る。また、様々な異文化適応の方法論に学び、多様な文化的背景をもった人同士が分かり合う可能性と方法を知る。さらに、異文化コミュニケーションの現状及び課題について学ぶと共に、異文化理解の英語学習への応用方法を考察する。	○		
8	歴史と文化	2	4	阿部 能久	学芸員	博物館に歴史担当の学芸員として勤務し、古文書や古記録等の史料を実際に扱った経験をもとに、史料からの正しい情報の引き出し方を伝え、それをもとにした歴史像の構築について教授する。 近代以前の日本社会において、政治権力と寺社を中心とする宗教勢力とは、密接不可分の関係にあった。また、仏教美術を中心とする芸術作品も、多くがそのような関係の中から制作・利用されていった。この講義では前近代の日本における政治・宗教・美術の関係性に着目し、そこからどのようなものが生み出され、また、それが社会にいかなる影響をおよぼしたのかについて考えていきたい。 特に日本中世における仏教諸宗や僧侶たちの動向を手がかりに、その時々権力者や民衆が宗教に何を求めていたのか、そして、仏像をはじめとする優れた仏教美術作品が制作された背景にどのような願いが込められていたのかについて解説していく。		○	

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科 : 20単位
 日本文化学科 : 20単位
 子ども教育学科 : 20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
9	日本史概説B	1	2	今井 勇	国立公文書館アジア歴史資料センター調査員	国立公文書館アジア歴史資料センターにおける、デジタル歴史資料データの入力・確認作業、資料紹介コラム作成などの経験をもとに、公開されている公文書資料などを活用することによって、近・現代日本の社会状況をより内在的に理解することを教授する。 高校までの歴史科目については、人物名、事件名、年号などをひたすら暗記する科目といったような印象が強いと思われる。しかし、大学での歴史の授業はそれと大きく異なり、残された史料に基づきながら、実証的に過去の時代についての考察を深めていく作業が中心となる。特に概説科目である本講義では、各時代の特色を大きな見取り図から理解できることを目標とし、その過程で史料読解力や論理的思考力の向上を目指していく。 日本史概説Bでは、江戸時代末期から昭和時代までの日本史を対象とする。すなわち、日本近世史から近現代史とよばれる分野を扱う。この時代は、我々の生きる現代日本の在り方を形作ってきた時代であり、その経験と反省はこれからの歴史を切り拓く大きな糧となるものといえる。 本講義では各時期の特色と現代社会との連続性を理解するために、映像資料や最新の研究成果などを取り入れながら、それぞれの時代を振り返ることとする。		○	
10	日本史の研究(近代史特論)	2	2	今井 勇	国立公文書館アジア歴史資料センター調査員	国立公文書館アジア歴史資料センターにおける、デジタル歴史資料データの入力・確認作業、資料紹介コラム作成などの経験をもとに、公開されている公文書資料などを活用することによって、近・現代日本の社会状況をより内在的に理解することを教授する。 劇作家三好十郎の存在を軸として、日本近代史（明治期～昭和戦前・戦中期）を多角的に理解する。 基礎的な史料読解能力を身につけると共に、通説に対する批判的な検証能力を養う。 三好十郎（1902～1958）は、激動の近現代日本を「火だるま」のように生きた一人の劇作家である。その生涯の中で三好は、サンジカリズムの立場から次第にマルクス主義へと接近しながらも、革命運動の在り方に対する問題意識から転向を経験する。そして、転向後の三好は自身の「精神と肉体の分裂」を自覚しながらも、戦争協力的一端を担っていくことになった。 本講義では、「火だるま」のように生きた劇作家三好十郎の実像に迫ると共に、なぜ三好が転向や戦争協力といった様々な経験しなければならなかったのかについて、同時代の政治的・社会的・思想的背景に基づきながら考察を進めていく。		○	
11	日本史の研究(現代史特論)	2	2	今井 勇	国立公文書館アジア歴史資料センター調査員	国立公文書館アジア歴史資料センターにおける、デジタル歴史資料データの入力・確認作業、資料紹介コラム作成などの経験をもとに、公開されている公文書資料などを活用することによって、近・現代日本の社会状況をより内在的に理解することを教授する。 戦没者遺族運動の展開過程を軸として、日本現代史（昭和戦後期）を多角的に理解する。 基礎的な史料読解能力を身につけると共に、通説に対する批判的な検証能力を養う。 敗戦とその後の占領政策によって強い喪失感の中から形成された戦没者遺族運動は、戦後日本社会の変化をどのように捉え、その中に「戦没者」を位置づけようとしたのか。本講義では、戦没者遺族運動の形成・展開過程を通じて戦後日本社会の変化についての理解を深めると共に、遺族運動によって再評価が進められた「戦没者」像に注目することによって、平和憲法体制下における反戦・平和の実相について分析を試みる。 そして、それらの分析に基づきながら、戦前・戦中の日本社会と戦後日本社会の連続性と断絶性について実証的に検証する。		○	

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科 : 20単位
 日本文化学科 : 20単位
 子ども教育学科 : 20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
12	歴史と社会	2	4	今井 勇	国立公文書館アジア歴史資料センター調査員	国立公文書館アジア歴史資料センターにおける、デジタル歴史資料データの入力・確認作業、資料紹介コラム作成などの経験をもとに、公開されている公文書資料などを活用することによって、近・現代日本の社会状況をより内面的に理解することを教授する。 敗戦後に公布・施行された日本国憲法に基づいて、「反戦平和」を国是とする戦後日本の歩みがはじまった。戦後日本社会は「反戦平和」をどのように受容し、そして実践しようとしてきたのか。それは決して平坦な道のりであったわけではなく、時代状況の変化にともないながら、「反戦平和」をめぐる数多くの対立と再定義が繰り返されてきたといえる。 本講義では、敗戦後の日本の歴史を概観しながら、戦後日本社会における「反戦平和」の可能性と限界について同時代の史料に基づきながら内在的な分析を進める。それによって、戦後日本の歴史と社会の歩みの延長線上に、現代日本に生きる私たち一人一人の存在を位置づけることが可能となる。 そして、まさに現代的課題ともいえる「反戦平和」の実践性について考察を深めることを目標とする。 本講義では敗戦後の日本の歴史について、下記のとおりおよそ五つの時期に時期区分した上で講義内容を組み立てる。①1945年：敗戦～1952年頃：占領から独立へ、②1950年頃：朝鮮戦争～1960年頃：60年安保闘争前後、③1965年頃：ベトナム反戦運動～1975年頃：全共闘運動、④1972年頃：沖縄復帰運動～1990年頃：冷戦の終結、⑤1990年頃：ポスト冷戦～2000年代：現代日本社会へ、以上の時期区分に基づきながら同時代を概観し、それぞれの時期区分において代表的な「反戦平和」の思想と実践に注目する。さらに、「反戦平和」問題に関連した史料のみならず、映像資料も活用しながら分析を進める。		○	
13	キリスト教文化論A	3	2	柳田 洋夫	日本基督教団伝道師・牧師	プロテスタント・キリスト教の教会の牧師として、いくつかの教会で職務に携わった経験を生かして、キリスト教をはじめとする宗教一般について、基礎的知識また観点を伝える。 世界的歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」とであるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについての概略的知見を深めることを目標とする。 これまでのキリスト教をめぐる学びをふまえつつ、日本の文化・社会の発展に貢献したキリスト者たちについて学ぶ。		○	
14	キリスト教文化論B	3	2	柳田 洋夫	日本基督教団伝道師・牧師	プロテスタント・キリスト教の教会の牧師として、いくつかの教会で職務に携わった経験を生かして、キリスト教をはじめとする宗教一般について、基礎的知識また観点を伝える。 世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」とであるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについての概略的知見を深めることを目標とする。 宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。		○	
15	保育内容総論	1	2	相川 徳孝	私立幼稚園教諭	幼稚園において実際に教育課程や指導計画を立て保育を実践していった経験を活かし、どのように保育の内容を構築し、日々の保育を展開していったかを具体的に伝えていく。また遊びを通しての学びについては実践例を取り上げ説明をしていく。 同様に保育士としての経験を活かし、0歳児から2歳児までの保育内容について個々の発達を踏まえて保育を展開していった実践例を取り上げて3歳未満児の保育について説明をしていく。 幼児期の特性を踏まえた教育とはどのようなものかを理解し、遊びを通した総合的な学びの在り方と主体的な遊びを展開するための環境を構成する力を身に付ける。また保育を展開するための指導計画の作成方法と具体的な指導の在り方について学ぶ。 子どもの姿や保育の評価、情報共有および記録、保育分析・保育改善に情報機器を活用した映像資料が有益であることを理解する。 幼児教育がどのような考えのもとで展開されているのかを理論と具体的な保育の場面から学び、各自が実践してみることを通して身に付けていく。保育とは何か、また遊びを通して幼児の育ちを理解するために実践事例や映像資料を活用し、保育内容とその展開、そして総合的な指導の在り方について理解する。			○

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科 : 20単位
 日本文化学科 : 20単位
 子ども教育学科 : 20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	子ども教育学科
16	保育内容・表現	3	2	相川 徳孝	私立幼稚園教諭	幼稚園教諭や保育士として子どもたちの表現活動を実際に指導した経験を活かし、0歳児から5歳児の発達に即した多様な表現活動についての実践を踏まえて模擬保育を展開し、指導していく。 乳幼児の発達を踏まえ、幼児期において育みたい資質・能力を理解した上で、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容に即した指導案作成の方法、模擬保育を通して保育の具体的な展開と、教材等の活用に留意した指導方法を身に付ける。 「子どもと表現」の授業で習得した多様な表現方法・表現技術をもとに、幼児の活動や遊びを豊かにする表現の具体的な方法を実践的に学びながら、幼児の実態に即した指導計画と具体的な保育の展開方法を身に付ける。保育評価と振り返りの方法として情報機器の活用について学ぶ。			○
17	生活	1	2	杉山 晶子	青森県小学校教諭	小学校生活科においての実務経験をもとに、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編に基づき、生活科の指導内容に關した授業構想の仕方や教材開発等についての実務経験を積んだ。小学校生活科においての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編」の基本的理念を理解させると共に、小学校現場の実態を踏まえ、授業構想の仕方や教材開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等を通して、児童の立場に立つ学び方を学ばせ、理論的知識と実践的態度を育成することを教授する。 生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解する。生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について学び、生活科の存在意義（今日的役割）を正しく理解することを目標とする。また、生活科の授業を展開するに当たった教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。（他者理解の方法の習得 言葉に関する素養の習得） 小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験等をとおして学ぶ。さらに「幼児期の教育」との連携やスタートカリキュラムの重要性についても考察する。			○
18	生活科教育法	2	2	杉山 晶子	青森県小学校教諭	小学校生活科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編」においての指導内容を踏まえた学習指導案の作成や模擬授業体験等の場をつくり、実践的・実感的に学ぶことを教授する。 小学校学習指導要領における生活科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を理解し、「生活科の授業づくり」ができる指導力を身に付けることを目標とする。また、生活科における子どもの学び、教師の役割、子どもの思いや願いを生かした授業等について、自分なりの考察ができるようにする。 この授業を通して、他者理解、子どもの「言葉にならない思い」を汲む力、コミュニケーション能力の習得を目指しながら、専門職としての責任感、倫理観、パートナーシップの育成を図ることも目指していく。小学校学習指導要領に照らしながら、生活科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に教材研究の手順を理解するとともに、自ら生活科の教材づくりに取り組む。また、子どもの意識の流れに沿った学習指導案の作成や、模擬授業を通して授業の進め方を実践的に学ぶ。その際、ICTを活用した指導計画づくりも積極的に考案する。			○
19	算数	1	2	杉山 晶子	青森県小学校教諭	小学校算数科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）算数編」の基本的理念を理解させると共に、小学校現場の実態を踏まえ、主体的で対話的な深い学びの授業改善の視点に立った授業構想の仕方や教材開発等について、演習や実践事例等を通して学ばせることで、算数科における理論的知識や学習指導案・授業構想についての理解を目指す。 算数科指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導（主体的で対話的な深い学びの授業構築）に生かせるようにする。また必要に応じたICTの効果的な活用について理解する。 小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの発達段階や概念形成を踏まえて理解すると共に、話し合いを通してさらに考えを深める。 教材研究を通して、教材のねらいや授業の進め方等を研究し、学校現場に立ったときに自信をもって実践できるように自らの力量を高める。			○

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科 : 20単位
 日本文化学科 : 20単位
 子ども教育学科 : 20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修 学年	単位 数	教員氏名	実務経験	授業内容または授業概要	欧米 文化 学科	日本 文化 学科	子 ども 教 育 学 科
20	算数科教育法	2	2	杉山 晶子	青森県小学校教諭	小学校算数科についての実務経験をもとに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）算数編」における指導内容を踏まえた学習指導案の作成や模擬授業体験、ICT活用等の場をつくる。さらにそれらについてアドバイスしたりディスカッションさせたりすることで、実践的・実感的に学ぶことを目指す。 算数科における基礎的・基本的内容を基に、小学校現場においての主体的で対話的な深い学びの授業実践のあり方について、指導案作成や模擬授業を通して理解する。その際には、交流や省察を通し、改善点の発見や再認識をするようにし、子ども視点に立ったより効果的な授業実践を目指すようにする。 問題解決を通して算数数学を使って考える楽しさや算数数学のよさを自ら感得し、子どもが学ぶ意欲を高める授業実践のあり方を身に付けるようにする。さら指導案作成を通して算数科のねらいを明確に捉えたと共に、主体的で対話的な深い学びの授業改善を目指した模擬授業を行う。同時に、効果的なICTの活用方法や教材開発についても研究し、演習や交流等を通して改善していくことを目指す。			○
21	初等国語科教育法	2	2	田中 正代	東京都小学校教諭	小学校教師として勤務した経験をもとに小学校教育の実態について言及し、小学校教師の観点から理論的・実践的知識を教授する。 小学校学習指導要領における国語科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を理解し、「国語科の授業づくり」ができる指導力を身に付けることを目標とする。また、自らの書写能力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることも目標とする。 小学校学習指導要領に照らしながら、国語科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等をおして授業の進め方を実践的に学ぶ。			○
22	教育方法論	2	2	田中 正代	東京都小学校教諭	小学校教師として勤めた経験をもとに小学校教育の実態について言及し、小学校教師の観点から理論的・実践的知識を教授する。 これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するためには、学級経営や授業スキル及び学校現場での課題を理解するとともに、それらの指導内容を実践できなければならない。また、ICTを活用した教育の有用性を理解し、実践できなければならない。教育内容としての不易な部分だけではなく変化の激しい今日の課題にも対応できる資質を身に付けるようにする。 本講義では、教育の方法に関する基礎的・基本的な理論を学ぶことで、授業を行うために必要な知識を習得することができるようになる。また、プログラミング学習や教育メディアの演習を通して、情報活用能力を身につけるとともに、協働的な態度を養い、主体的・対話的で深い学びの実践を図るようになる。			○